JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

# JISS所報

2012年9月30日発行 ・・・ 所報No.355

## 目次

129回、130回、131回スウェーデン研究連続講座

129回
スウェーデンの市民生活と政治　　Ph.D　ノルディック出版代表　レグランド塚口淑子

130回
スウェーデンと日本は何が違うのか
ー国際データによる分析

A「雇用状況の変化と出産率低下の関連性
ー北欧との比較から」　松田俊介

B「スウェーデンの若者の参政意欲の高さを探る」
角田みずき

C「母親の働き方と子どもの学力」　林　由希采

D「北欧と日本のイノベーション環境」　桑崎誠也

E「北欧デザインに見る社会意識の反映
～使い手視点の作り手から生み出す魅力～」
柏木　綾

131回
知っていてそうで知らない　ノーベル賞の話　　住友商事元ストックホルム事務所所長、
(財)日本腎臓財団常務理事　　北尾利夫

シリーズ

スウェーデン留学体験シリーズ　アンケートから(7)

JISS所報原稿募集

スウェーデン社会研究所　所報
No.355 2012年9月30日発行

発行所：社団法人スウェーデン社会研究所
〒105-0013　東京都港区浜松町1-8-1
㈱科学新聞社内5階
連絡事務所
〒124-0024　東京都葛飾区新小岩2-19-7
Tel. 03-5661-6035 Fax. 03-3655-1596
e-mail：Jiss12@nifty.com
URL：http://www.sweden-jiss.com/index.html

発行人・編集責任者：野崎俊一
Publisher&Editor in Chief : Shunichi Nozaki
編集者：久保田健司
Editor : Takeshi Kubota

Copyright (C) Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies All Rights Reserved.

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報

2012年9月30日発行 ・・・ 所報No.355

# 第129回スウェーデン社会研究所連続講座
# 「スウェーデンの市民生活と政治」

Ph.D.　ノルディック出版代表　レグランド塚口椒子

前回の2008年では、スウェーデンの女性関連のことを話させて頂きまして以来のことです。私が勉強したのは、ジエンダ―とか、比較文学論や雇用問題で企業に与える影響などであって、今回の場合も、自分は何も政治学者ではなく、個人的には政治のことは深く知らず、いわばノンポリ。専門家が私の話を聞いたら、「変だ」と思われるかもしれませんが、これはまた質疑応答の中でお答え致します。

さて、政治と言うと、私たち市民にとっては、選挙は身近な政治問題であって民主主義の最大の関心事です。まず、選挙制度について簡単な概要から始まり、選挙のプロセス、投票、政治と社会のあり方、そして最後のテーマとして「なぜこうなのか」と言う私なりの分析とスウェーデン社会のあり方についてお話を進めていきます。

選挙制度ですが、一院制で、参政権は18歳の誕生日のある月からになっています。スウェーデン国民は約900万人を超えており、このうち、選挙権を持っている人は約780万人を数えます。もうひとつの特徴。国政はスウェーデン国籍を持っていないと投票ができませんが、県と市町村レベルでは住民全員に参政権があり、議員にもなれる。中には国会議員になる人もいるが、この場合は国籍をとっている人と言うことになります。投票用紙は一枚一枚が党別になっており、インターネットを活用できるシステムになっていますし、また自分が推薦したと思う候補者については個人名を書き入れることが1998 年から導入されています。投票用紙は投票日の何週間前から郵便局に用意されているなど細かい配慮がされており、これが投票率アップの一因にもなっていると思います。

次に政党派別の勢力図について。国会には現在8党があり、議員数は349人。党派別に見ますと、最大は社会民主党の112人、次いで穏健党107人、以下は環境党26人、国民党24人、穏健・中央党23人、キリスト教民主同盟19人、左翼党19人、スウェーデン民主党19人、無所属が 1人。無所属は本来、あり得ないですが、スウェーデン民主党の議員の中で過激な外国人排斥を主張する議員がどうやら党から除籍を受けたためにこういう形の勢力分野になっています。また、ブロック別で見ますと、与党は173　議席でこの数字は過半数175には2議席不足しています。内訳は穏健党の107議席、中央党23議席、国民党24議席、キリスト教民主同盟19議席など。一方の野党は156議席で、社会民主党112 議席をはじめ、環境党、左翼党、スウェーデン民主党、無所属議員らで構成されています。今は与党になっている穏健党。昔は保守党の名前でしたが、今は最大与党として党首を選出し、2番目の国民党から副首相を選出しています。

さて、私の偏見に満ちた解釈で言いますと、スウェーデンはみんな平等と言われていますが、実際にははっきりとしたクラス階級がある。しかし、国としては一人ひとりが平等でありとし、この穏健党は減税を主張し、金持ち層からはそれなりの指示を受けているようです。国民党はリベラル派で、知識層の支持があり、この党は外国人がスウェーデン国籍取得をする希望するなら語学テストを課し、また、教員の質向上にも同じ様な資格試験をし、それにそれぞれパスするシステムを取り入れるべきと言うことを目玉にしています。 中央党。約100年前は農民党としてスタートし、社会民主党とは一部連立を組んだ歴史がある党でしたが、今は「4%議席確保」の攻防をしている、いわば地方型戦術の党。規制緩和を主張し、今は28歳の若い女性が党首になっています。このように、穏健党を除けば、他の党は4%確保の攻防が注目され、また、過半数確保には野党でも政権取りに意欲を見せる環境党の協力を取り入れることが行われています。2度の選挙に敗れた野党の民主党ですが、母体は労働組合で、今日の福祉社会を作ってきた党でした。しかし、党内分裂などもあって支持率も減っており、次回、2014年の選挙の時はどうなるのか予測が付きません。左翼党は共産党を名乗っていましたが、「共産」のイメージを嫌い、名称を替えた経緯があります。

## 政党のロゴ、シンボル

穏健党(M)　国民党(FP)　中央党(C)　キリスト教民主同盟(KD)

社会民主労働党(S)　環境党(MP)　左翼党(V)　スウェーデン民主党(SD)

次は各党のロゴやシンボルマークについて。グラフでご覧のように、各党は穏健党を除いて各党のシンボルには「花」を形どっています。例えば、国民党はカ―ネション、中央党は四つ葉のクロ―バ、キリスト教はアネモネ、環境党はタンポポ。このタンポポはアスファルトでもどんな所からでもめげないで生えてくるというイメージからだと言われますし、社会民主党は昔からバラ。このため、新聞を見ても、いちいち党の名前をフルネームで書かず、例えば、環境党を表す「M」では、「Mはどうした」とかと言うスタイルで紹介していますが、このことは親しみやすく、また、国民もこのスタイルを使っているというのが現状です。

選挙のプロセスについて。まずはポスターからお話します。各党のポスターを貼る場所については特に規制はなく、橋の上に貼るなど国中にポスターが溢れるシーンが見かけられます。しかし、日本の選挙運動のように街頭宣伝カーで「お願いコール」をして回るシーンは一切無く、静かなものです。と言うのは、先ほどお話しましたように、投票は政党選びで、個人票を求めるスタイルではないからです。このように街中にポスターがあり、人々が集まるところには選挙小屋があちこちに建てられ、選挙が終わるとこれらの建物は売りに出されます。いずれも安く提供されるために直ぐに売れるそうです。また、この選挙小屋では、選挙民がこの政党の小屋はおもしろそうだと思えば、個々に行き、コーヒーなどをご馳走になりながら、政治談議をするなど、選挙は身近にあるということを実感します。また、党によってはこの小屋の屋根を緑の植物で覆うスプレーを試みる緑の党や人々の目に目立つためにスタフッフのユニホームを統一したり、資金に余裕がない党などは小屋の代わりにテントを持参し、それを組み立てて対処しているケースも見かけます。

街頭演説ですが、世の中の動きと政党の関わりは切っても切れない仲にあります。例えば、2010年に催された「セクシュアル祭典」では、10数年前の昔と違って「性に対する解釈」に世論が確実に変わっているということを実感したものでした。この祭典のパレードにはお堅い職業とされる警察や医師のグループも堂々と参加していることは各党とも「無視すること」は出来ず、この時はキリスト教党以外の各党も参加するなど、「私たちはあなたたちのことを考えています」という意思表示としての参加をしている事例があります。

このほか、スウェーデンの政治制度の特徴に触れますと、高い投票率があげられます。最近の事例を見ても、国会レベルは88.3%と前回に比べて 2.6%アップしていますし、自治体レベルの県会は 81.6%、市会が 88.1%を示しています。このように、高い投票率の背景は、政治は他人ごとではなく、わがこととして繋がる。つまり当事者意識があるのです。プライベート・ライフはイコール政治。個人的なことは政治的なことということです。

また、女性や若年層の活躍もあります。スウェーデンでは全員がなにがしかのことをしているという図式は当たり前。よく、スウェーデンでは福祉が発達すると怠け者が多くなるとの風聞がありますが、外部から見るとその真意が分からないかもしれませんが、私たちは福祉と言う安全網があるからいろんな事を自分たちのやりたいことをやって見る可能性がある。そういう機会があり、間違ったことをしても色んなチョイスがある。地方税は28%とか、高いところは30 数パーセントもあり、このことによって自分の収入がその分が税金で消えることになる。これに加えて25%の付加価値税があり、この両方を合わせると収入の半分近くが消えることになります。このように、自分の収入から取られる税金の使い方についてはいきおい関心が強いのは当たり前の感覚になっているのです。

そして、なぜ、政治が面白いのか。それは①政治家と市民の距離が近いということ②自分が政治に影響力を持つと考えている③メディアを含めて豊富な情報があるから――ということからでしょう。このため、私のようなノンポリでも政治に関心を持たざるを得ないようになってしまったのです。また、スウェーデンは「実験国」と言われます。例えば、

法案ができるまでの過程を見ても、①世論を重視して立案②法案を関係機関がチェック③修正案の制作④実施⑤世論⑥再検討。そして修正案と言う図式が繰り返される。このことが実験国と言われる由縁です。
このほか、スウェーデンの大きな特徴としては①情報公開制度の充実。②透明度の高い国家組織③有能な官僚④組織力⑤連帯の精神⑥個人の自律と自律、権利と責任があげられますが、この中で、今まで、日本ではあまり知られていなくて残念なのは、③のことです。高級官僚やオピニオンリーダーは忠実に国民のことを思っていて、真面目な人が多く、自分の知識を目いっぱい駆使し、「国は国民の家」と言う思想にぴったりだと思います。最後にまとめとして①国家と個人のよい関係を築いている②個人は国を自分たちで動かしていると信じている③国を信じている④自分と家族が守られているという安心感がある。

Copyright (C) Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies All Rights Rese

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報

2012年9月30日発行 ・・・ 所報No.355

# 第130回スウェーデン社会研究講座
# 「スウェーデンと日本は何が違うのか－国際比較データによる分析」

明治大学国際日本学部鈴木ゼミ

明治大学国際日本学部鈴木ゼミでは、北欧諸国への訪問や現地の方々との交流を含め、北欧の社会システムについて基礎的な理解を固めた上で、それを踏まえて、学生一人一人がそれぞれ個人のテーマを定めて、スウェーデンと日本の比較研究に取り組んでいる。比較研究といっても様々なアプローチがあるが、本ゼミでは国際比較データを用いて仮説を実証するという作業を通して、単に北欧のことを知っている、というだけではなく、論理的、科学的な思考を養うことを目指している。　本年度の卒業生である、鈴木ゼミ第1期生20名のうち、今回は以下の5名が発表をさせていただいた。

A　松田　俊介

『雇用状況の変化と出生率低下の関連性　－北欧との比較から』

日本の出生率は1970年代に2.0を下回って以降も低下を続け、ここ20年間は先進国中最低レベルで推移している。北欧やフランスといった欧州でも高出生率を維持している国々の特徴として婚外子比率が高いことが挙げられるが、日本の婚外子比率は2%程度である。結婚が出生の事実上の条件になっている事実に対し、近年の若年層の雇用不安や女性の社会進出への対応の遅れは一層の晩婚化・非婚化を助長している。若年層の雇用不安と婚姻率・出生率の関係に関する先行研究は存在しているが、本発表ではWVS（世界価値観調査）とISSP（国際社会調査プログラム）を用いて、北欧スウェーデンの社会制度との比較という視点から仮説の再検討を行った。その結果日本では家族主義が色濃く残り、結婚外の出産に対して厳しい世論が存在していることが確認された。雇用に関しては、非正規雇用の日本人男性の婚姻率は正社員のそれと比較して低い数値が表れた。また日本人女性の婚姻後の雇用形態を見る限り、未だに専業主婦やパートタイムが女性の就労形態の中心となっていることが明らかとなり、女性にとって家庭と正規労働の両立は難しい段階であることが示された。一方スウェーデン人のデータでは、男女共に雇用形態が結婚に与える影響（あるいはその逆も）は軽微であることが示され、かつ結婚と出産の分離を認める社会的価値観も認められた。よって、結婚と雇用に関する価値観・統計が日本の出生率低下に影響を与えていることが再確認された。

B　角田　みずき

『スウェーデンの若者の参政意欲の高さを探る』

3年生の時にスウェーデンの兼業議員制度に触れたことから、スウェーデンと日本の政治制度の違いに興味を抱いた。そんな中、若者の政治離れが問題とされている日本からは考えられない投票率を誇るスウェーデンの若者の姿勢に驚きを感じ、今回卒業論文においてスウェーデンの若者の参政意欲を高める要因を探ることにした。検証にあたり、政治に参加しやすい仕組み・社会的寛容さ・政治家へのイメージの3点を要因として仮説に挙げデータ回析を実施。発表ではグラフや数値を用いて結果の説明を行った。

回析結果から、スウェーデンでは日本よりも若者の政治的課題に対する理解度が高く、さらに日常から政治の情報に触れる習慣があることが判明。またスウェーデンでは年配層に比べ若者の方が政治に発言する自覚があることや、新人が既存の集団に溶け込みやすいことが読み取れた。一方日本では、政治家へのイメージの悪さが目立ち、若者が政治の本質を見極めることなく興味を削がれていることがわかった。

これらの結果より日本の若者の参政意欲を高めるには、若者が政治を知る機会や若者を政治に受け入れる体制を作ることが必要であると提言した。

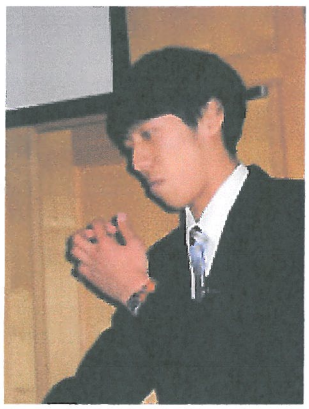
C 林　由希菜

『母親の働き方と子どもの学力』

「労働」「教育」を掛け合わせたテーマで、スウェーデンと日本を比較していく。この研究では、World DatabankやOECDによる、スウェーデンと日本のデータをもとに、「母親がフルタイムで働く家庭で育った子供は学力が低い」という仮説をたて、検証を行った。PISA、WVSのデータや資料をもとに検証していった結果、この仮説が一概にはいえないということがわかった。スウェーデンでは母親がフルタイムで働く家庭で育った子どもの方が学力が高く、日本では母親がパートタイムで働く家庭で育った子どもの方が学力が高いという結果から、理由を考察していき、両国ともに家庭教育を見直すべきという結論に至る。スウェーデンでは、学校教育は政府が支出していて家庭からの支出がほぼなく、学校教育を信頼している人の割合が比較的多いことから、「家庭教育」を重要視している家庭が少ないのではないか。一方日本では、塾や家庭教師に頼りすぎるあまり、これまた「家庭教育」の責任を放棄している家庭が多いのではないか。日本で学力1位の秋田県の教育の強みは「家庭学習ノート」にあることも参考に、スウェーデン、日本ともに、今一度家庭教育の重要性を認識するべきである。

D 桑崎　誠也

『北欧との比較による日本のイノベーション環境』



本論文では、World Economic Forumの発行するGlobal Information Technology Report における世界各国のIT環境のランキングを基に、イノベーションと各国の研究開発費用に関するランキングや、世界各国の価値観調査のランキングを比較することにより、各国のイノベーション環境の背景、IT整備に関する国民の意識を調査した。また、IT競争力ランキングにおける北欧諸国の高いIT活用の背景にある、国全体の意識として取り組んでいるイノベーションの支援体制について、スウェーデンのKista Science Cityの例を取りながら、産官学連携でのイノベーション推進の取り組みについて考察した。

Kista Science Cityにおいては、情報通信技術に対する研究開発に重点が置かれ、新規事業を立ち上げる段階から国際的な展開を視野に入れているスウェーデンのビジネスモデルに対し、少子高齢化により労働人口の減少が叫ばれる日本においては、内需中心のビジネスモデルから、グローバルに経済活動を行うことが求められているという成長戦略に対して、輸出入における障壁や、ベンチャー企業に対する社会的な評価が低いといった日本の現状とのギャップがあることを明らかにした。

E 柏木　綾

『北欧デザインに見る社会意識の反映　～使い手視点の作り手が生み出す魅力～』

本論では北欧の魅力を「北欧デザイン」に見ることができると考え、北欧社会とデザインの各特徴を検討した。北欧デザインの始まりは9世紀ヴァイキング時代に遡る。異国民とのコミュニケーション能力と、限られた自然素材の加工技術を兼ね備えた北欧の人々は、他のヨーロッパ諸国が高度な工業発展を遂げる中で、唯一の資源である木々を用いてものづくり技術を磨いた。20世紀には世界の各美術展においてその高度な技術と斬新なアイデアが認められ、使い手の気持ちを理解し、強みを生かして無駄を省いたデザインが確立した。私はこの背景に、作り手と使い手の距離が近い社会システムがあるのだと考え、土台の要素として2つ軸を立てて研究をした。1つ目は、女性、高齢者、その他多様な国民に向けての社会参加機会が制度として整っていること。2つ目は、その斬新なアイデアを実際に製品化し社会に流通させる環境が整っており、それを支えるだけの人々の価値観があるということ。これらを、女性の社会進出度、社会福祉制度、デザインに対する国民の関心、政府の研究開発費等の検証によって証明した。

Copyright (C) Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies All Rights Rese

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報

2012年9月30日発行 ・・・ 所報No.355

# 第131回スウェーデン社会研究講座
# 「知っていそうで知らないノーベル賞の話」

住友商事元ストックホルム事務所所長、ノーベル研究家　北尾利夫

私は1986-91年までの5年余、スウェーデンに赴任していました。その間、日本商工会の二代先輩がこのスウェーデン社会研究所理事長の瓦林聖児さんでした。現地では私の事務所から市庁舎までは歩いて10分程度の距離にあり、また、ノーベル賞の表彰式があるコンサートホールも反対側で、5分程度の所にあります。12月10日と言いますと、周りは冬景色で午後3時過ぎにもなりますと、暗くなり、会場に入っていく紳士淑女を見ると、私も厳粛な気持ちになり、これらがきっかけとなってノーベル賞や人なりなどについて考えるようになって25年。それをまとめたのが、この本、「知っていそうで知らないノーベル賞の話」(平凡社新書)を昨年、上梓しました。

さて、ノーベル賞ですが、スウェーデン語では、「ノベール」で、「ベ」にアクセントがあります。それが日本ではどうして間違って定着したのか、「ノーベル」です。不思議です。1901年、明治34年の第一回の模様を報じているは読売新聞では「ノベル賞」となっています。また、川端康成が1916年の17歳の時の日記には「俺は将来、立派な物書きになってノベル賞を取る」などと記しています。このように、34、5年ぐらいはノベル賞であったらしい。それがその後はノーベル賞になって今日に至っています。

今日はこの言葉の言い方にこだわらず、日本式のノーベルでやらしていただきます。まずはノーベルのプロフィールから。1833年(天保4年)にストックホルムで生まれ、1896年(明治29年)、イタリアのサンレモンで亡くなっています。享年64歳。19世紀で最も重要な発明と言われるダイナマイトを発明し、これを世界に普及させました。この結果、大富豪になり、死後、その基金運用から五つの分野で最も重要な貢献をした人にあげる国際賞として1901年に始まり、112年目になります。このノーベル賞のすごい点は世界最初の国際賞。それまでのヨーロッパには既に学術賞の類はありました。これらはいずれもその国の国王か王立機関が自国民に与えたもので、外国人に賞をあげると言うことは考えられない時代でした。19世紀という時代は今の各国が固まる前で、国家主義、植民地主義でした。ノーベルの時代を見ても、アヘン、クリミア、プロシア×フランス、ロシア×トルコ、イギリスのエジプト出兵、新興国のアメリカもメキシコと戦うなどありました。

そういう時代背景にあって、ノーベルは賞を与えるに当たって「候補者の国籍を一切考慮してはならず、最も功績をあげた人に与えるということを特に明示しておきたい」とあります。これは何とも高邁で、博愛主義、理想主義ともいえる大きな考えです。

2番目としてその賞金額が桁はずれに大きいものということです。第1回目の賞金額は15万クローネ。この金額は当時のヨーロッパで教授の年収の20倍くらいでした。ノーベル賞の賞金は資金運用する訳ですから、毎年、その額は変動します。このため、アップとダウンを繰り返しながら、また、インフレを考えますと、第1回の金額が76%まで下がったケースもありました。戦後は世界経済が回復し、またバブルもあって一貫して増え続け、1991年の時はスタート時にまで回復。そして2001年から昨年までの11年間は1千万クローネになっています。この金額は円為替レートで変動しますが、最高で1億7千万円から8千万円。ここ、2、3年は円高で1億2、3千万円ほどといずれも大きな金額になっています。

さて、今日、国際賞の類は珍しくなく、一説によると、2、3千あるとか。あらゆる学問、芸術部門にも〇〇賞と言った賞はありますが、その賞金額は殆どが何万ドル単位です。1千万円の国際賞は大きい方です。例えば、本田宗一郎賞は1千万円、また、賞金の額が大きい事で知られる日本の京都賞(稲森京セラ名誉会長の私有財産から3分野に五千万円)、同じ年の1985年にスタートした日本国際賞(松下幸之助の寄付)も定額の五千万円など、これを見てもノーベル賞がいかに特出しているかがお分かり頂けるかと思います。

この元になったダイナマイトの発明をめぐるエピソードは時間がかかりますので、ごく簡単に走り抜けることにします。

人類が最初に火を使い始めたのは40万年前でした。それに比べると、火薬の歴史は新しく、13,4世紀にあったことは知られています。硝石、硫黄、木炭の粉を混合した黒色火薬。これがダイナマイトやそれ以降の近代、現代の火薬に比べると、はるかに爆発力の威力が弱いものであった。それはともかく、これが人類最初の火薬であった。1847年にイタリア人のアスカニオ・ソプレロがニトログリセリンを偶然のたまものとして発明するが、一滴を鉄板に落とすと窓ガラスを揺るがす制御不能の物として実験レベルで放棄されていた。この爆発力に注目したのがノーベル。苦心惨憺の末、このニトログリセリンを大量に安全に作る製法を開発し、これを安全にする起爆原理、雷管を発明し、このニトログリセリンを土木用として売り出す。国内、周辺諸外国に広まりますが、取り扱いが厄介なことから事故も頻発し、油状から固形にしたダイナマイトが誕生したのです。ちなみに、ギリシア語では「力」と言います。

当初は倍々ゲームで生産量が増え、土木・鉱山関係を中心に販売網が広がっていった。1765年に蒸気機関を発明し、石炭・蒸気で動力を作ることから石炭の増産にダイナマイトが導入された。そして19世紀には鉄道、道路建設網にとダイナマイト使用が広がり、活躍する。また、土木工事の難・大工事にもダイナマイトが活躍し、その中でも特筆なのは、ノーベルが存命中に始まったパナマ運河工事では一件当たり最大なものして3千トンと言われるほどでした。もっとも火薬ですから、常に爆発の危険があり、輸送と保管には神経を使った。そこでノーベルが取った戦略は使用する近い所やその国内に作るというもの。この結果、製造会社・工場はノーベルがイタリアの邸宅で倒れた時は世界20カ国に93の製造会社・工場と355の特許と3,300万クローネの遺産が残された。

円に換算しますと、250億から300億円で大した額ではないと思われますが、当時の時代から見ると、やはりヨーロッパ最大級の遺産。そして国内、ヨーロッパで注目されたのが「遺書」でした。

そこには誰もが考えなかった衝撃的な事が手書きで4ページにわたって書かれていた。それがノーベル賞の構想だったのです。まず、親族に対する遺贈が書かれていた。生涯独身で、両親、兄も亡くなり、弟も実験中に亡くしていたため、2人の兄の子の甥と姪の6人宛の額は全体の3%に満たないもの。親しい人や身の回りの召し使いら19人に対しも総額の5%に満たないものだった。また、「残りの換金可能な私の全ての財産は、私の遺言執行人によって安全な有価証券に転換すること」となっていた。

この遺言が発表されると、大きなセンセーショナルを引き起こしました。初期の興奮が収まり、反対・異論が巻き起こってきて、相当な論議が起きた。その中には遺族から「少なすぎる」というものがあるように、遺言状の欠陥を指摘し，無効という声も聞かれた。遺族の中にはフランス、イタリアなど9カ国に相当な金額があり、これを仮押さえしょうとした事もあった。このように、この遺言状には欠陥が多くあった。これは弁護士に相談せず、自分1人で書いたことによる。なぜ、こうした行動をとったのか。考えられる事は、ノーベルは弁護士に対し、これまでの仕事を通して嫌悪感をもっていた。

2番目には遺書の考えが非愛国であるという議論。外国人に大きな賞を与えるというのはとんでもない考えで、スウェーデン人が受賞しない限り、金額が国外に流出するのは、当時のスウェーデン人の2割がアメリカに移民していた時代もあり、国王も不快感を示した。

3番目の問題は、ノーベル賞選考をいきなり委ねられた各団体。これらの団体はその選考に当たっての準備時間や資金の調達などのめどが立たないなどを理由とした非協力な態度と拒否反応があった。

そして4番目として隣国のノルウェーに平和賞を委ねたことであった。当時のノルウェーはスウェーデンの属国であり、同君連合の元にあった。それとノルウェーは独立機運があるなど、外交的にも微妙な立場にあった。

このように数々の問題点があった遺言について遺言の執行人と指名されたのは、ノーベルの最晩年にあって相談相手であり、信任が厚かったソールマン。彼は遺族の説得や政府筋に働きかけ、ノーベルの死後、3年半たった1900年6月にノーベル財団設立について国王の認可をもらうまでこぎ着けたのであった。かくして第1回ノーベル賞の選考が行われ、翌年の01 年、命日に当たる12月10日に授賞式が行われた。これはたぶん、ノーベルも想像しえなかった立派な形で行われた。定めた賞は五つですが、ノーベルは爆発部門の専門家ではあったが、生理学や文学、平和賞を設けたのは、いずれもこれらに深い関心の領域であるという事にほかならない。

ノーベルはレオナルド・ダビンチのようにマルチ人で、自分で動物実験をしたり、ニトログリセリンを動脈硬化に適応できないかなど、まだ人間の血液型が知られていない時代にあって数々のアイデアを考えたり、語学も英語、ロシア語など5カ国語を母国語と同じく操ったという語学の天才でもあった。また、平和賞の構想については、ダイナマイトが人を殺傷する事に対する懺気の念にかられたなどと、もっともらしい事も伝わっていますが、これは俗説だと思います。ノーベルという人物は物静かで争いを好まない。イギリスの詩人、シェリーは平和主義者で、ノーベルは彼の平和主義に深く影響を受けた背景があります。また、オーストリアの女性、ズットナーをフランス時代に秘書にし、亡くなる直前まで文通していていたが、彼女の国際平和という考え方に共鳴し、寄付するなど協力関係にあった。このように、「罪滅ぼしに平和賞を」と言うことは、辻褄が合わない。

次に「経済学賞はノーベル賞ではない」。これを知っている方はごく少ないですね。どなたも！？という反響です。思い込んでいる紛らわしい理由はなぜ存在するのか。これは簡単なのです。「遺書に書いてないから」です。この経済学賞の経緯は、1986年にスウェーデン王立中央銀行が創立300年を迎え、その記念行事として基金を設け、そこから

賞金を寄付するのでノーベル財団に「経済学賞を設けて欲しい」と申し込んできた。内部では反対があったが、科学アカデミーだけは、その中に経済学部門を抱合していることでもあり、これを支持した。特に当時のスウェーデン科学アカデミー経済学部門には、世界的な経済学者のミュルダールラがいて、この案を支持した。これは私の推測ですが、ノーベル財団としては、科学アカデミーには物理学賞、化学賞の選考という大役を担ってもらっているという恩義があるせいかどうか、とにかく妥協してこの賞が設けられた。

そして、毎年、ノーベル賞の賞金額が決まると、その1.65倍の金額が寄付金から財団に移される。この0.65倍の部分は賞金以外の費用である選考費用、式典など諸経費相当部分に充てられる。受賞者の選考はノーベル各賞に準じた規則を設けて、これに基づいてスウェーデン科学アカデミー経済部門の委員会が行う。授賞式はノーベル賞と同じ日、同じコンサート・ホールの壇上で国王から賞状らが手渡される。しかし、この経済学賞の名称は「アルフレッド・ノーベル記念スウェーデン銀行経済学賞」であって、「ノーベル経済学賞」ではないのです。

この経済学賞を新設するに当たって、財団側はその理由として「経済学は偉大な実業家であったノーベルにとって重大な関心領域であったと考えられる」という苦しい言い訳をしていますが、こと、経学賞についてはその後も批判が絶えない。1997年にはスウェーデン・アカデミーが改めてノーベル財団からの切り離しを申し入れ、最近の例では2001年に100周年記念行事を前にした時も、ノーベル兄弟のひ孫にあたる子孫は、日刊紙スペンスカ・ダーグブラーデッドに寄稿している。その文面は「経済学賞はノーベル賞の名に値しない。名称を変更してノーベル財団からはっきり切り離すべき」と主張している。その理由として、「経済学賞は遺書の中にも記されていないし、全人類に最大の貢献をなした人に贈るという遺言の趣旨にもそぐわない」。また、「ノーベルは本質的に研究者、発明家であり、事業や経済は好きではなかった」とし、さらに、経済学賞の名称をスウェーデン中央銀行賞と改めるべきと主張している。

これに対し、同財団の当時のソールマン専務理事は「この要求をしているのは300人いるノーベルの子孫の中の4人に過ぎない」と反論した。しかし、同財団も、経済学賞を設けたのは適当ではなかったと考えている節が窺がわれ、公式文書や対外発表などでの記述でも、他の賞に比べると、時にやや素っ気ない扱いのように感じられることもあるのは気のせいであろうか。このように経緯はともかくとして、儲け物をしたのは経済学の世界で、世界の殆どの人が「ノーベル経済学賞」だと思い込んでいて、賞の権威、名誉を享受している。（編集部から：経済学賞をめぐる話は北尾氏の著書「ノーベル賞の話」から一部を引用・抜粋）

次に選考について触れます。前年の九月になりますと、各選考機関の下部機構であるノーベル委員会があり、そこから世界中の専門家、研究家、事業団体の長、過去の受賞者に推薦状が発送される。物理、生理・医学、化学の三部門には2500から3千通が大学、研究機関、その他の専門家や権威者らに出される。文学と平和賞関係は200から300通程度です。その推薦締め切り日は翌年の1月31日。そこから受賞者の決定・発表が行われる10月初めまでの約8カ月間にわたって厳重な調査が行われる。これはいずれも難作業です。

私も腎臓関係の団体の仕事をしておりますが、その団体数は100を超えます。大きなものともなると1万人を超える学者、研究者の団体があり、研究発表や議論が行われます。また、学会誌があって、各分野の論文雑誌がある。それはまた多くのものは英語であり、自然科学三賞の研究者同士の交流は常にあり、かつ、人間関係も構築される。また、過去の発明や発見が現在は国際的にどう評価され、この分野の研究者間では共通の認識や理解が存在します。このため、最先端の現場では「あの大学の教授はノーベル賞をもらうはずとか、「もらってもおかしくない」などという風に、結果については納得する訳です。

これに比べると、文学賞は相当事情が違う。出身国が違うと、その国の文化、歴史、言語、宗教、民族など様々に違う事を土壌にして文学が生まれる訳ですから、これに優劣をつけること自体が難しい。また、世界の誰が研究し、今、どの程度になっているのか、どんな評価がされているのか、などの共通の認識もない。財団にとってもどの国にどんな作家がいるなど、1970年代まではデータ的にも少ないものがあった。それと選考は原則としてスウェーデン語は別にして英訳として審査・選考する。このため、いくら立派な文学作品であっても英訳されない限りは選考の土俵に上がれない。このことから、いかに優秀な翻訳者に恵まれるかが作家にとって大事になります。

こうした背景から、戦前は言うに及ばず、戦後も1970年代までは、受賞者は欧米文学中心で、言語も欧米のヨーロッパの主要言語が8割を占めていました。アジア諸国の最初は1913年、インドのタゴール。しかし、作品のほとんどは宗主国の言語である英語でした。アジア国有の言語で書かれた最初のケースは1968年の川端康成まで待たなければならなかったのです。今、日本人で下馬評に上がっている村上春樹さんについてはスウェーデン在住のデューク・エイコさんが彼の作品を随分とスウェーデン語への翻訳をしています。私もお世話になったが、この人の存在は日本人にとってありがたいと思います。

平和賞は文学賞とはまた違った難しいものがあります。これは、戦後の受賞者を対象に私が分析し、累計としてまとめたものですが、このカバーする領域は極めて広い。それは国際平和の推進、国連など国際機関への貢献、国家間・民族・宗教に根ざす対立の解決、人権問題、民族独立闘争、軍縮問題、民主化運動、暴力や恐怖政治への抵抗運動、武器の削減・廃絶、人道支援、難民救済や貧困者への援助、最近では環境問題など多種多様あり、これをどう比較し、選考するのか。また、国際政治や事情が絡むなど、この賞はどこからも文句が出るなど至難のわざと言えます。ですから、今年はこの人というのはまず不可能。

例えば、思想、体制、立場などの違いから出たものとしていくつかの事例を紹介しましょう。1983年のポーランド民

主化運動指導者・ワレサの時は、政府や旧ソ連らが不快感を示したし、89年には、チベットの指導者、ダライ・ラマ14世には中国が強い非難をした。
そして91年のアウン・サン・スー・チーさんの時はミヤンマー政府から非難があり、授賞式に出席できなかった。また、ノーベル平和賞の最大不祥事といいますか、事件としては1935年にドイツのオシエツキーというジャーナリストで平和運動家は、ナチズムに批判的活動を行って国家反逆罪で強制収容所に送られていた中で受賞した。この事にヒトラーが激怒し、「今後、ドイツ人は受賞まかりならぬ」と布告した。このため、ドイツでは三人が生理、化学部門で出ているが、この禁止令で受賞出来なかった。しかし、これは自らの意思で出ない限り有効。ヒトラーが亡くなった後、おそらく受賞していると思われますが、ただし、賞金は翌年の10月1日までにもらわないと無効になる。

また、2010年、中国の民主化運動家、劉暁波が、「国家政権転覆扇動罪」で11年の懲役刑を受けて服役中に受賞したことに対し、中国政府が強く反発、様々な報復措置を打ち出したことは記憶に新しい。しかし、この中国政府のとった行為はノーベル賞の趣旨や選考過程から見てお門違いのものです。と言うのは、ノーベル賞はノルウェーのノーベル委員会が政府や国会とは独立して選考・授賞するからです。このように、どこからも文句が出ないケースは、自らの信念から長年にわたって人道的貢献をしたシュバイツァー、マザー・テレサ、キング牧師、ネルソン・マンデラらと、国境なき医師団、国連平和維持軍などの類でしょう。

これとは別の批判の対象としてあるのが政治家の授賞するケースです。ひとつはアメリカ・元大統領特別補佐官のキッシンジャー。賞の理由としてはベトナム戦争終結への努力となっています。古くはセオドア・ルーズベルト大統領。日露戦争終結への努力によりとなっています。これら授賞対象となった功績は、多くの場合、その立場上の当然の職務として行ったものであり、たまたまその立場にあったがゆえになし遂げられたもの。このため、政治家が受賞すること自体がおかしいとか、あの人がもらうのはおかしいなどの反論の根拠があって誠に難しい。その点、文学、平和賞以外の三部門については客観性、情報公開性から見て比較する上では透明・公平があるといえます。結局、ノーベルの崇高な理念を尊重してこれからも選考すると言うことが進められていくと思います。

最後にアラカルト的に興味あるものをピックアップしてみます。2回もらった人は5人います。その1人はキュリー夫人。1903年に放射能の研究で物理学賞、そして1911年にはラジウムとポロニウムの発見で化学賞。夫婦で受賞した例は4例。キュリー夫人は夫のピェール・キュリーと共に1903年に共同授賞していますが、もう一点 、すごいのは娘夫婦が1935年に化学賞を共同受賞していることです。キュリー夫人は女性受賞者の第1号でした。珍しい事例として辞退したケース。その1人は、フランス人の哲学者、サルトル。その理由は「人が他人を評価するのは気に食わない」とか。彼はフランスの賞をはじめ、顕彰の類は全て辞退していたと言いますから、その考えは終始一貫していた。ベトナムの指導者、レ・ドゥク・ト。19731年、ベトナム戦争終結、パリ協定締結の努力が評価され、キッシンジャーとの共同受賞であったが、まだ真の平和は実現していないとして辞退した。また、キッシンジャーは授賞式には出席せず、遅れて賞の返還を表明したが、ルールでこれは認められなかった。

授賞式に出席できなかった事例はたくさんある。南部陽一郎さんの奥さんは病気で欠席した。1922年の物理学賞だったアインシュタイン。彼は1910年ごろから毎年、推薦を受けていたが、その時は日本にいたのです。調べ物をしていてエピソードを見つけるのは楽しい事ですが、これはその一例です。彼は1922年12月4日から6日まで、栃木・日光の金谷ホテルに泊まっている。彼は当時の日本の有力出版社だった改造社の招待で講演旅行で10月にベルリンを出発し、マルセイユから日本郵船「北野丸」に乗船。その洋上の11月10日に受賞の知らせを受け取った。しかし、やむを得ず、予定通り各地を講演し、大歓迎を受けた。その一連の中で日光の紅葉狩りを楽しみ、ホテルの宿泊帳にサインを見つけました。このほか、亡くなってもらった人とか、授賞のなかった年などありますが、時間が来てしまいましたので、この辺でお終いにします。

Copyright (C) Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies All Rights Rese

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報

2012年9月30日発行 ・・・ 所報No.355

# スウェーデン留学体験シリーズ　アンケートから(7)H.Yさん

(2010年4月アンケート記入)

**留学先**　学校名:ストックホルム大学、ルンド大学　専攻:ストックホルム大学にて社会学(International Graduate Programme)、ルンド大学にて国際法(Master's Programme in Human Rights and Labour Right)
課程・留学形態:ストックホルム大学での課程:修士課程在学以上の者が参加でき、大学からは学位は出さないが、単位認定は行うプログラム。現在は廃止。ルンド大学での課程:修士課程　私費留学
留学期間:ストックホルム大学:2005年9月～2006年6月　ルンド大学:2006年9月～2008年2月

**留学の動機**　なぜスウェーデンに留学しようと思いましたか？なぜ他の欧州・北欧諸国ではなくスウェーデンを選びましたか？
福祉や人権問題への取組みが発達しているからです。「福祉にお金を使うからこそ、社会が発展する」と当時日本からスウェーデンを見ていて感じました。実際、ストックホルム大学の授業でも経済学の講師が「貧乏人を貧乏なままにしておく方が費用がかかるのです」と言っていました。そういう社会について学びたかったのですが、当時は全くスウェーデン語ができなかったため、英語で学べるプログラムに応募しました。そのため、どちらの大学の課程もスウェーデン社会そのものを学ぶためのプログラムではありません。

**留学前の準備期間**　留学を思い立ってから実際に現地へ出発するまで、どのくらいの準備期間が必要でしたか？
1年半。

**スウェーデン語や英語の勉強方法**　日本またはスウェーデンで、語学をどのように勉強しましたか？
いずれも独学。英語はラジオの「ビジネス英語」を聞き復唱すること。英字新聞や雑誌を読むこと。アメリカ人の個人教師を雇って週1回、1時間会話の練習をしていました。
スウェーデン語　CD付の教科書を買って読んでいました。英語ほど真剣にはやっていませんが。

**TISUS(大学入学のためのスウェーデン語試験)を受験したことはありますか？**
ありません。

**情報収集方法**　どのようにして情報を集めましたか？
HPのみです。

**現地の学校への問い合わせ**　学校へはどのような方法で連絡を取りましたか？またどのような質問をしましたか？
合格前は連絡をとっていません。

**出願**　どのような書類(芸術系の場合は作品)をどこに提出しましたか？
ストックホルム大学とルンド大学の各々のHPに記載されていた住所に郵送。指定の書類以外には(a)Personal Statement(志望動機書)、(b)推薦状(ストックホルム大学へは1通、ルンド大学へは2通)

**書類(作品)を提出する際に苦労した点はありますか？**
留学するのなら当たり前のことなのですが、志望動機書や推薦状を英文で用意したことです。文例等はインターネットで調べ、最後にアメリカ人の個人教師やイギリス人の知人に添削してもらいました。

**出願から正式な入学許可書を受け取るまで、どのくらい時間がかかりましたか？**

締切は3月末。発表は5月中ごろE-mailで、文書では6月に受け取りました。

**入学試験**　現地で入学試験や面接を受けましたか？
受けていません。

**居住許可の取得**　どのような方法で取得しましたか？
入国前までに、学生居住許可をスウェーデン大使館を通じて申請しました。

**申請時に提出した書類や、申請から取得までのおおよその日数を教えてください。**
大使館のHPに載ってあるとおりに用意。申請書、写真の他にパスポートおよび入学許可証のコピーと預金の残高証明です。

**保険**　どのような保険に入っていましたか？
入っていません。（決して勧めませんが、最初は滞在予定が4ヶ月だったのでなくてもいいかと思ったので。留学期間が1年を超えるプログラムなら、社会保険番号(personnummer)が付与されスウェーデンの健康保険が適用されます。）

**学校生活**　日本の学校（大学）の授業と比べて異なる点や、スウェーデンの特色を教えて下さい。
良い点：少人数でディスカッションや会話が中心。厳しいという印象はありませんでした。世界各地で実際に何が起こっているのかをまず知ろうとする現実的なアプローチ。
悪い点：授業時間が少なく、取れる授業も少ないことです。ルンド大学では1年半（3セメスター）のプログラムで6科目しか取れませんでした。しかもそのうち一つは修士論文でした。他国の留学生からも「授業時間数が少なすぎる」、「スタッフ不足だ」という苦情がありました。兄が某英語圏の大学に留学したというある学生は「兄の大学では英語力が不足している学生には先輩学生をチューターとして付けてくれたが、ここにはそういうサービスはない」と言っていました。

**授業の準備はどのようにしましたか？予習・復習にどの程度時間をかけましたか？**
**また日本で身につけた語学力で十分でしたか？**
授業の前に指定図書や資料が発表され、多くはインターネットでダウンロードできました。ひたすらそれを読んで準備しました。ストックホルム大学のときは非常に少人数だったので、質問や他の資料からの引用など「とにかく授業で1回は発言しよう」を目標にしていました。
ルンド大学時代は、授業で講師が発言した内容をカタカナでもいいから書き取って、自宅で検索エンジンで調べたり、日本の参考書で関連箇所を読んだりしていました。

**英語の授業プログラム（International Programme）に参加する場合でも、スウェーデン語は授業やリサーチ、日常生活において必要でしたか？**
スウェーデン語は全く不要でした。

**授業以外に勉強する際、どのような場所を利用しましたか？学校の施設（図書館、コンピュータールーム、カフェテリアなど）は充実していましたか？**
授業以外の勉強場所：自室、大学図書館や公立図書館　図書館：どこでも不便は感じませんでした。カフェテリア：ルンド大学法学部付属のカフェテリアは安くて良かったです（コーヒー1杯が5クローナでした。）ストックホルム大学のカフェテリアは民間業者の運営で、どこも高いと感じました。

**試験はどのように実施されましたか？また試験対策はどのようにしましたか？**
各コースは5週間または10週間で終り、終了時に試験がありました。会場での試験は3時間で何でも持込可（不可のものも1科目あった）。多くはTake Home Exam（自宅に持ち帰る試験、いわゆるレポート）で、期限までにオンラインで提出する形式のものです。スウェーデンの大学期末試験では、1回目が不合格でも2回目が受けられます（私は受けたことはありませんが）。ルンド大学ではタイ人学生と仲良くなり、お互い「予想問題」を考えて答案作りをしていました。

**プレゼンテーションやレポート（エッセイ）作成に際して、大学による語学サポートなどはありましたか？またスウェーデン独特の書き方やフォームはありましたか？**
語学サポートは全くありませんでした。修士論文作成前に30分ほど書き方について（年号はどう表記するか、引用は

どう記述するか、イギリス英語を使用、等）の授業はありました。ただ、それを厳格に守らなくても論文の公表はできます。修士論文は提出前にスウェーデン人の友人に英文をチェックしてもらいました。

**学校全体やクラスにおける留学生や日本人の割合、また年齢層はいかがでしたか？**
ルンド大学のクラスでは学生全部で50人ぐらい。スウェーデン人は10人。日本人は自分以外にいませんでした。東欧出身者が多いと感じました。アジアの国ではネパール1人、インドネシア1人、中国2人、タイ1人。学部から直接進学した人は少数で、私の知る限り法曹関係者（検事、判事）、大学の講師、国家人権機関の研究員、民間企業勤務者などが多かったです。

**クラス以外の活動（クラブ、サークルなど）に参加しましたか？**
法学部学生主催の「Country Lecture」でタイ人の友人と一緒に「トラフィキング－送出国と受入国」というタイトルで学生向けに発表しました。それ以外にはやっていません。

**現地の学生とどのように交流を深めましたか？大変だった点はありましたか？**
みなさん20歳ぐらい年下でしたが親切にしてくれました。アフリカ（2人）、中国（2人）、スウェーデン（2人）の人たちと私のアパートで良く食事を作って食べました。

**日本からの留学生とどのように接していましたか？**
ストックホルム大学では若い交換留学生（大学3回生）さんと日本語科の授業を見学に行ったりしました。ルンド大学では他のプログラム（修士課程）の方（社会人経験者）と知り合いになりました。自分が積極的に友人を作るタイプではないので特に寂しいとも思いませんでした。

**他国の留学生とどのように接していましたか？また、指導教官とのやり取りで大変だった点はありましたか？**
他国の留学生とつきあうのに、大変だと思ったことはありません。「どこの国の人であっても似たような人と友人になる」と思いました。指導教官について。論文の指導教官とはフランス在住でメールで論文指導してもらえることになっていましたが、全く連絡が取れませんでした。プログラムの担当者（准教授）に苦情を言いましたが、何もしてもらえませんでした。他の学生は他の教官に指導官になってもらうよう頼み込んだりしていましたが、それもかなわず諦めた人もいました（指導官なしで論文作成した）。
私は12月にその指導官とやっと会えて、それ以後はメールでこまめに指導してもらえました。また、他の指導教官も指導しない人がいて、学生内では「先生のうち2人くらいしかまともに指導していない」、「私も頼み込んで別の先生に指導教官になってもらった」という話をしていました。「論文指導教官が指導しない」話は他の学部の人にも聞いたことがあります。

**日本で得た情報と異なっていた点はありましたか？**
ありません。

**住居**　留学期間中の住まいをどのように探し、どこに住みましたか？
ストックホルム大学：スウェーデン人の友人宅に1週間居候していました。その間にあちこちに電話をかけ、SB（Svenska Bostäder/スウェーデン住宅公社）の学生アパートに空室があったので入居。ここはキッチン付のアパートでしたが、家具は全く無く、友人にベッドや机、電球まで借りて生活を始めました。その後、SSSB（Stiftelsen Stockholms Studentbostäder/ストックホルム学生住居協会）のアパートに入居。
ルンド大学ではインターネット(www.blocket.se)で見つけたアパート。広告を見て大家と連絡、大家がほぼ国外で生活している家族で、その間一人暮らしでした。

**トラブルはありましたか？その場合、どのように対処しましたか？**
ストックホルム大学では、SSSBのキッチン共用アパート（12室で共用）に住んでいましたが、中国人とノルウェー人がちらかし放題の人でした。まとめ役のスウェーデン女性がキッチンミーティングを開いていましたが、彼女がドイツに留学してからはまとめる人がおらず、周りの人たちも諦めてしまいました。また、学生がパーティーを開くと真下の階であっても騒音で眠れません。隣の部屋のギターもよく聞こえてきました。
こういう問題はありますが、SSSBのキッチン共有アパートは個室でトイレ・シャワー付、家具、調理器具付でマットレスさえ手に入れれば入居して即生活が始められます。インターネット接続サービスも家賃に含まれています。
また、キッチンメイトたちと仲良くなって一緒にみんなで旅行していた人もいます。
キッチンで問題を起こすのはごく少数の人で、他には掃除当番に当たると徹底的にやる人、黙々と備品の修理をする人、世話役を買って出る人など、尊敬に値する人もいます。良い社会勉強になります。

**気候**　気候の違い（気温や日照時間）に対して心がけた点を教えてください。
日本で買っていったもので最初の冬は越せました。ただ、現地では外套と靴を買うことをお勧めします。外套（ジャケット）はスポーツ用品店で買いました。袖や襟から暖気が逃げない作りになっています。また、冬季は歩道が凍結して転倒、骨折する人もいるので、底がそれに対応した靴を手に入れることをお勧めします。

**現地の食事事情　普段はどのように食事をしましたか？現地の食事や食材で苦労したことはありますか？また日本の食材は手に入りましたか？**
日本の食材はストックホルムでは問題なく入手できます。米はスーパー・マーケットでも売られています。日本の米に近いのはgrötris（おかゆ用の米）。私は食にはこだわらないタイプで、お金も倹約していたのでもっぱら自炊。パン、チーズ、りんご、ミルクで生活していました。スウェーデンは外食すると高いですが、スーパーでは値段は手頃ですし、野菜は1個単位で売っています。スウェーデンでは寿司が人気。日本人経営の寿司店は少ないのですが、和食が恋しいときにフラリと行くこともあります。

**留学費用、送金・管理方法など　学費や諸経費はいくらでしたか？**
学生組合への登録料が半年で360クローナぐらい。カードでも支払可でした。

**学費以外の生活費（家賃、食費、光熱費など）はどのくらいでしたか？**
ストックホルム大学留学中は1ヶ月で10万円～15万円ぐらい使いました。SBのキッチン付アパート代が3,600クローナ／月くらい、SSSBのキッチン共有アパートが2,648クローナ／月でした。ルンド大学留学中はアパートに1人で住んでいたので、家賃が4,000クローナ／月でした。

**お金をどのように管理していましたか？日本から送金をしましたか？**
買物はクレジットカードで日本の口座から落ちるようにしていました。ルンド大学在学中に現地で口座を開設して、自分の預金100万円を親に送金してもらいました。

**医療**　現地で受診したことはありますか？大学内で医療サービスを受けることはできますか？
ありません。

**現地での各種相談先　相談先は事前に知っていましたか？学校の内外で問題があったとき、誰に相談しましたか？また家探しに対する支援はありましたか？**
ルンド大ではInternational Students Houseがそういう（住居斡旋も含めて）世話をしていたと思いますが、私は使ったことがありません。ストックホルムの友人一家等の個人ネットワークを使っていました。

**治安**　現地の情報をどのように集めましたか？注意した点はありますか？
個人的には犯罪の被害にあったことはありません。ルンド大の図書館で盗難があったので注意するように司書さんに言われました。治安は非常に良いと思います。

**通信関連**　パソコンや携帯電話、インターネットを現地でどのように利用しましたか？また、日本からパソコンを持参しましたか？
自分のPCを持って行きました。SSSBの学生アパートでは無線LANが家賃に含まれています。また、大学でも無線LANが使えます。ただSBの学生アパートにはLANポートがあってもプロバイダーは自分で契約しなければなりませんが、Personnummer（社会保険番号）がないとプロバイダーと契約できません。（その他、社会保険番号がないとできない契約は多々あります。この点では「総背番号社会」だと思いました。）

**帰国後の進路　現在の所属を教えて下さい。**
現在スウェーデン人と結婚しストックホルム在住です。KOMVUX（市が運営する成人教育学校で、これも無料です。）へ通い、2010年3月にSvenska som andraspråk B（外国語としてのスウェーデン語Bレベル〔高校卒業レベル〕）を修了しました。現在の主な仕事は店員のアルバイトです。また、日本語←→英語の翻訳の仕事を少々。

**あなたの留学経験は、現在の仕事や学業にどのように活かされていますか？**
今のところは英語以外は活かされておりません。

**後輩へのアドバイス　留学生活を振り返って、「日本にいる間にしておけば良かった」と思うことはありますか？**

当然のことですが、専攻分野の勉強をしておくこと。日本語の本というのは単に日本語で書かれているというだけでなく、背景の問題点が日本人にわかるように書かれています。（私の経験では）英語で読むよりも理解が速いです。

**これから留学を考えている方々へアドバイスをお願いします**

スウェーデンでは大学の授業料は無料ですが、その分、授業時間が少ないとか学生へのケアが少ないという不満はあります。しかし、授業時間が少ないということは、その分予習に時間が割けるということでもあります。また自由時間が多い分、ボランティアに参加して、授業以外に何かを学ぶこともできます。「勉強は自分でやるものだ」と思っている人にはうってつけです。「指導しない指導官」もいる一方、博士課程の学生には「もっと僕たちを利用してほしい」という人もいます（この逆の人もいましたが）。私は学生仲間に論文のアドバイスをお願いしていました。大学だけに頼るのではなく、自分で人脈と勉強の機会を広げていくことをお勧めします。

2011年秋からEU圏以外の外国人には授業料有料となりますが、1年以上のプログラムの履修者にはスウェーデンの健康保険が適用されます（民間の保険に入る必要はありません）。ストックホルムであれば学生アパートは留学前に決まると思います。そこではトランク一つで生活可能です。また、治安が良くどこでも英語がよく通じます。以上がスウェーデン留学の利点だと考えます。

Copyright (C) Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies All Rights Rese

社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報

2012年9月30日発行 ・・・ 所報No.355

## JISS所報原稿募集

JISS所報では、北欧・スウェーデンの歴史・政治・経済・社会制度などを研究しておられる方、公的機関や福祉・環境・教育などの社会活動機関、企業活動等での交流を通じて北欧・スウェーデンに興味をお持ちの方、あるいはJISSやJISS所報にご意見をお持ちの方々からのご投稿を広く募集しております。
応募方法は下記の通りですので、ふるってご投稿下さい。所報の編集方針に従って逐次掲載してゆきます。

1　応募資格
特にありません。ただし氏名・所属・連絡先は明記下さい。匿名の投稿は受付けません。

2　内容と字数
北欧・スウェーデンに関するものであれば内容は自由ですが、800字（程度）、1，600字（程度）、3，200字（程度）のいずれかの文長でお願いします。
（まだ文になっておらず、テーマ、アイデアの段階であっても、投稿ご希望であればお気軽にJISS所報編集部にご相談下さい）

3　掲載の可否と掲載時期
掲載の可否、掲載時期の判断はJISS内の所報編集部で行います。
送られた原稿は返却しませんのでご了承下さい。

4　謝礼
ご投稿への謝礼は無料ということでお願いいたします。

5　原稿の送付先
原稿は、「JISS事務局　所報編集部」宛て、Eメール、郵便、またはファックスにてお送り下さい。

Copyright (C) Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies All Rights Rese